

平成 27(2015)年 11 月 2 日

保護者のみなさまへ

豊能町立東能勢小学校
校長 新倉 英俊

平成 27 (2015) 年度全国学力学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにおかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育活動推進にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、4 月 21 日に行われました平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果が 8 月に文部科学省より公表されました。該当学年の 6 年生児童には個人結果を返却しましたが、本校全体の結果につきまして概況を報告させていただきます。

調査内容は、国語 A・算数 A（主に知識）、国語 B・算数 B（主に活用）、理科、児童質問紙（生活習慣や学習に対する意識等の調査）です。

なお、今回の調査の問題や質問紙の内容は、国立教育政策研究所のホームページで公表されています。また、豊能町の結果概要と分析、今後の取り組み等は、町ホームページに公開されていますのでご覧ください。

I. 国語の結果から

国語 A（主に知識）

- ・ 漢字については、読みも書きも全国平均と同等の正答率であった。
- ・ 文の構成の中で、主語を把握することに課題が見られた。(別紙 国 A-2)
- ・ 問題の内容に合うものを選択する問題は、一定の正答率であるが、複数の文章や説明を関連付けて選択する問題については、正答率が低い。(別紙 国 A-3)
- ・ 文章の中から、問われているまとまりを見つけ出すことに課題が見られた。
(別紙 国 A-5)

国語 B（主に活用）

- ・ 新聞のわり付けや、紙芝居の絵が示す内容を選択する問題の正答率は、全国の平均正答率より高かった。
- ・ 条件に合わせて、内容をまとめたり、自分の考えを書くことには、課題が見られた。(別紙 国 B-2)

II. 算数の結果から

算数 A（主に知識）

- ・ 小数や分数を含む計算は、どの問題も正答率が高いが、唯一、末尾の位がそろっていない小数のひき算だけは、正答率が全国平均を下回った。(別紙 算 A-2)
- ・ 直方体の見取図や展開図から、必要なことを読み取ることについては、正答率が高かった。
- ・ 二等辺三角形の性質と円の性質とを組み合わせることに課題が見られた。
(別紙 算 A-5)
- ・ 式が表している部分を図と関連付けて捉えることには、課題が見られた。
(別紙 算 A-8)

算数 B（主に活用）

- ・ 見積りの計算をすることや、面積を求める問題についての正答率は、比較的高かった。
- ・ 平行四辺形や正三角形の合同の性質を使って理由を説明することには、課題が見られた。(別紙 算 B-1)
- ・ 百分率の問題で、比べられる量と割合からもとにする量を求めることの定着に弱さが見られた。(別紙 算 B-2)

III. 理科の結果から

- ・ 顕微鏡やメスシリンダーの名称や扱い方を問う問題では、正答率が比較的高かった。
- ・ 水の温まり方について、実験結果や考察内容を問う問題の正答率も高かった。
- ・ 植物の成長の様子と日光の当たり方から植物に適した栽培場所を選択し、理由を書く問題の正答率は、低かった。(別紙 理-2)
- ・ 与えられた情報から、星座と雲の動きや、観察している方位を推察することに課題が見られた。(別紙 理-4)

※ 特に本校の課題と考えられる問題を別紙にまとめましたのでご覧ください。

Ⅳ. 児童質問紙について

子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識を調査したもので、次のような特徴が見られました。

① 生活の様子について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答がどちらも9割程度ありました。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対しても、肯定的な回答が9割を超えていました。これらは、全国平均と比べて大きく上回っています。自尊感情や自己肯定感を高く持ち、前向きにすごしている児童が多いことは喜ばしいことです。

しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定している割合が100%になっていません。自分自身を含めて、一人ひとりを大切に思う気持ちをしっかり育ていけるよう、全力で取り組んでいく必要があります。

- 「家の人と学校の出来事について話をしますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対する肯定的な回答が、全国平均と比べて高いことをはじめとして、朝食や起床の項目も安定した結果が出ています。生活リズムが、ご家庭でのコミュニケーションをもとにしっかり育まれていることがうかがえます。

ただし、長時間、テレビを見たり携帯電話やスマホを使用したりする人数の割合が高いことは、気になります。テレビや携帯電話・スマホは、情報を入手する上で非常に便利なものですが、使いすぎないように計画的に活用していかなければなりません。また、近年、インターネット等で犯罪に巻き込まれる事件も増加しています。パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機などルールを決めて活用することが大切だと考えます。

- 地域や社会の出来事に興味を持ち、よりよくするために何をすべきか考えることに対しては、高い意識を持っていることが分かりました。自分たちの足元をしっかり見つけ、地元を大事にする気持ちが育ちつつあることは、喜ばしいことだと思います。

② 学習の様子について

- 「学習が大切ですか」「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、各教科とも肯定的回答が9割を超え、全国平均を大きく上回っています。

一方、学習が好きかどうかは、教科によってばらつきがありました。『好きこそ

のの上手なれ』という言葉もありますので、子どもたちみんなが興味を持って学習に取り組めるよう支援していきたいと思います。

- 普段、30分以上読書をする割合と、学校図書館や地域の図書館を利用する割合が、共に全国平均を大きく上回っています。読書をよくする子は、知識が増え、集中力が増し、読み取る力もついていきます。この調子で、本がもっと好きになり、視野が広がっていくことを期待します。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」の質問に対して、プラス回答が全国平均を上回りました。特に、計画を立てることは、大きく上回っています。これらの項目は、今まで本校の課題となっていた部分でしたので、自学自習の取り組み等の成果が出ているとしたら、うれしいことです。
- 自分の考えを書くことや、うまく伝えるように話すことには、苦手意識を持っている児童が多いようです。これは、学力調査の結果にも現れています。その一方で、やり方や工夫を根気よく考えることには、前向きな意識を持っています。今後、表現の仕方を身につけ、表現する機会をできるだけ多く持ち、自分を表現することに慣れていくことが求められます。

Ⅴ. おわりに

以上のように、全国と比較したうえで特徴的な項目について報告をさせていただきました。本校区の子どもたちは、ご家庭でしっかりと見ていただいておりますが、この機会に子どもたちの生活と学習について、振り返っていただければと思います。

学校では、今年度も引き続き、すべての児童が分かりやすい授業づくりをめざして「道徳を中心にユニバーサルデザインを生かした授業づくり」の研究に取り組んでいます。また、自らすすんで学ぶ態度を育めるよう、自学自習やグループ学習や調べ学習等の取り組みも進めています。

読書活動（朝読書・読書作文や本の帯コンクール・地域サークルの読み聞かせ等）では、その充実によって、読む力や感性を高め、知識が豊かになるように取り組んでいます。

さらに、子どもたちが安心して元気に学習や活動ができるよう、しっかり一人ひとりを見つめて、学校全体で課題に臨んでいける体制を意識しながら、日々子どもたちの支援を行っていきます。

今後とも、ご家庭・地域のみなさんと連携し教育を進めていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願ひします。